

1 はじめに

新年度での計算ドリル採択にあたっては、「ポチ・タマドリル」を迷わず選択することになりました。それは、

- ・文字や数字の書体、大きさ、見やすさ
- ・教科書との対応
- ・スモールステップの練習問題
- ・負担を感じさせない問題数
- ・ポイントを押さえたヒント
- ・自学自習に適した解答例
- ・つまずきのフィードバック先の明記
- ・学習に支障を来さないキャラクター
- ・センスの光る装丁やサイズ
- ・適正な価格
- ・準拠した専用ノートの存在

の点で、大変優れていたからです。

2 算数ノート

教員生活26年目にして、この「らくらくノート」に出会い(というよりも意識し)、その使いやすさに驚かされています。

これまでに私は、各学年の学習内容と子どもの発達段階を考慮して、1年生では、22ミリマス(10×6)、18ミリマス(12×7)、2年生では、12ミリマス(12×17)、18

ミリ横罫(17行中割)、3年生では、10ミリ方眼、4年生からは5ミリ方眼(10ミリ実線)を使用してきました。

とくに3年生は、大きなマス目や太い罫の低学年ノートから、方眼の高学年ノートへ移行する過渡期で、「ノートを作る・取る」という基礎・基本を身につける大事な時期です。

10ミリ方眼ノートは、計算ばかりでなく、線分図や図形を描くのに威力を発揮するので、大変重宝します。

ですが、この4月から新任地で久しぶりに3年生を受け持つことになり、指導する立場の私自身がどのノートを使ったら良いのかと不安を抱いていました。

3 3年生の実態

3年生の算数では、「わり算」をはじめ、「かけ算」の筆算、「円」や「三角形」などの図形、「かさ」や「重さ」の単位、「小数」や「分数」など、今後の基礎となる概念や内容が、数多に初登場してきます。

そもそも算数科とは、既習を基に新たなしくみや性質を考える教科です。ノートに書くことを通して、自分の考えを表現したりまとめたりする力を高め、その記述を見返すことで、新たな場面に活かすことができます。

この時期の子どもたちは、「ギャングエイジ」と称されるとおり、学校生活への慣れもあって、急に文字が乱れてきたり、わざと雑に書

いてみたりして、低学年までの姿勢が残念ながら乱れがちです。

ノートの取り方の約束を再度確認したり、書き直しをしたりと、その都度個別的な指導が必要となってくるわけですが、現実には、学習内容の理解を図ったり、深めたりする指導の方が優先され、これに時間を費やしてしまいます。

4 ノートの重要性

『東大合格生のノートはかならず美しい』（太田あや著・文藝春秋社発行）という本が話題になったように、確実に理解している頭の中と、明瞭に整理してあるノートのページとは、互いに連動し合っているのでしょう。

これにあやかって、どの子にも決まった形式で基本のノート作りを徹底させ、「見やすいノートの心地よさ・便利さ」を、一人ひとりに体感させたいと思いました。

3年生の算数の授業のオリエンテーションで、新鮮な気分でもの1ページ目を開かせながら、文字を乱さず丁寧に取り組むことを大前提に、基本的な約束を決めました。

- ・ノートは、縦方向に使う。
- ・一マスに、一文字・一数字を書く。
- ・次の計算は、一マス・一行の間隔をとる。
- ・線は、定規を使う。
- ・問題のページや番号は、必ずふる。
- ・間違いは、消さずに赤ペンでやり直す。

5 らくらくノート

この「らくらくノート」は、学習内容の基礎・基本を押さえ、さらに補足もできるように工夫されています。

一般のノートより割高感はあるものの、子どもたちにとってはわかりやすく、しかも、取り組みのようすが一目瞭然なものとなっています。

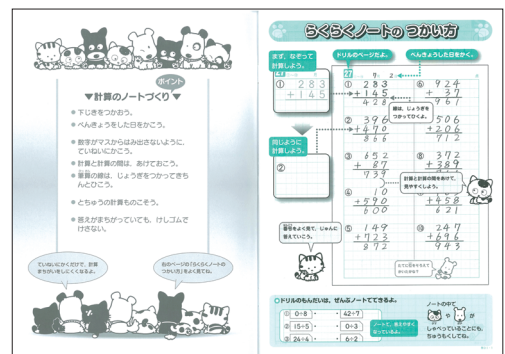
また、ドリルに対応しているので、指導者は全員必ず全部やり通したかどうか確認でき、子どもたちは手をつけていないページに気づいて、能力差に関係なく「自分もやらなくちゃ」という意欲をかき立てます。

私はこのドリルを授業の進度に合わせてながら活用し、ステップ1の1問目を一斉指導して、そのページの残りを宿題に出すようにしています。

保護者にとっても、子どもの学習到達点が容易にわかり、家庭での指導がしやすかったようです。

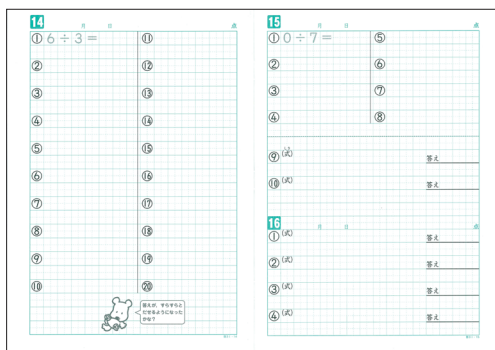
「らくらくノート」の利点を挙げてみます。

- (1) 最初の見開きに、計算のノートの作り方のポイントと、「らくらくノート」の使い方がわかりやすく掲載されています。

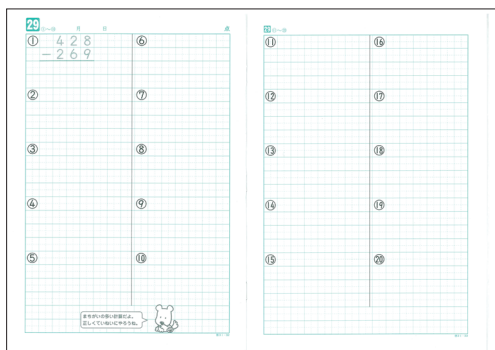


(2) ドリルのページと番号に対応した構成で作られていて、学習した月日や得点を記入できるようになっています。

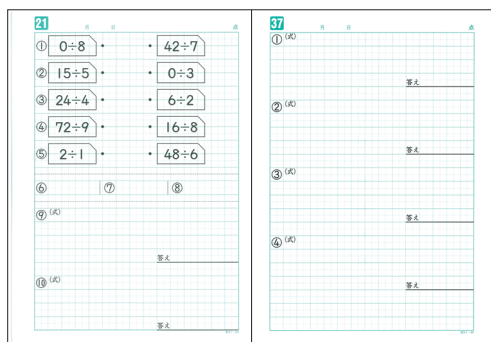
(3) 最初の問題をなぞり書きでスタートさせて、その表記方法の定着をサポートし、そのパターンで進めていけばよいという方向を示しています。



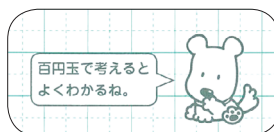
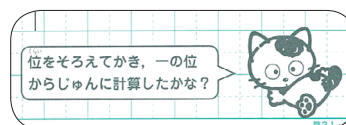
(4) 番号が明記されていて、すぐに計算に取りかかることができ、問題を解く場所が確保されるばかりでなく、計算と計算の間隔がしっかり取れ、問題解決までの過程がすっきりと見えてきます。



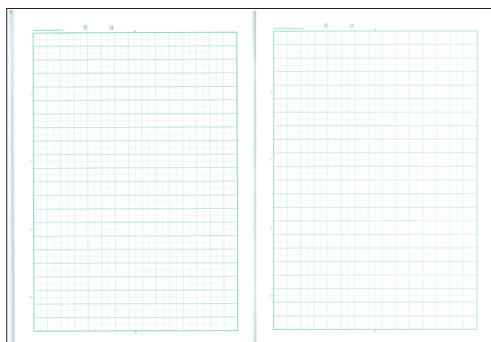
(5) 計算以外の問題も、すべてこのノートでできるようになっていて、時間を効率的に使えます。



(6) キャラクターの吹きだしコメントが、子どもたちにとって的を射たアドバイスになっています。



(7) 自由ページがついていて、繰り返しや、やり直しに利用でき、10ミリ方眼（編集部注：3年生用の場合）であるため、作図に最適です。



(8) 最終ページに、「勉強の記録」があり、「がんばり賞」シールを貼って、子どもたち一人ひとりへの称賛ができます。



6 終わりに

保護者の負担を考慮すると、泣く泣く「らくらくノート」は1学期のみの購入となりました。

ドリルは継続使用するので、授業用ノートを兼用し、問題番号の指定もない、10ミリ方眼をいかに使いこなせるかが課題でした。

心配した通り、「ごちゃごちゃノート」になってしまう子もいましたが、自分なりに楽しく「すっきりノート」を作っている子もい

ました。

「らくらくノート」の活用がきっかけとなり、学習を進めていく上で必要不可欠な力である、「整理されて見やすいノートを作る力」が、自然と身についたのでしょう。

高校入試に、小学校中学年の学習内容から出題されることがあると聞き、目の前にいる子どもたちの近い将来を想像してしまいました。

一時間一時間の授業を大切にするのはもちろん、できるだけ時間を有効に使い、理解の徹底を図らなければならないと、痛切に感じます。

「早くやりたいな!」「できたよ! 次は?」

子どもたちが自ら進んで学んでいく、こんな前向きで頼もしい姿が、一番輝いて見えます。

(22年度までの教材を使った実践例です。)

